

# 明日 への 話題

## サステナビリティ 意識の高まりと 金融の役割



野村ホールディングス  
取締役兼代表執行役社長グループCEO

おくだ けんたろう  
**奥田 健太郎**

例年1月下旬にスイスのダボスで開催される世界経済フォーラム（WEF）主催の年次総会（通称ダボス会議）に先立って開催されるダボスアジェンダも今年是完全オンラインでの開催となりました。今回の大きなテーマは「トラストの再構築」でした。私が参加した国際ビジネス評議会（IBC）では、ステークホルダー資本主義の促進に向け、財務情報に加え、非財務情報の開示等について積極的な議論が展開されました。各国の事情により若干の違いはあるものの、各社サステナビリティへの取組みを積極化していることを理解しました。この分野で遅れをとると、ビジネスを失う可能性さえあるという危機感もあるでしょう。

野村グループの経営ビジョンは「社会課題の解決を通じた持続的な成長を実現すること」です。当社の企業価値向上と社会全体の持続的な成長は同じ道の上にあると考えています。環境問題を含め社会課題を解決していく上で、もちろん補助金や社会貢献活動としての寄付等は重要ですが、あくまで富の再配分であり、それだけでは十分とはいえません。解決のスピードおよび、持続可能性を追求すると、企業が利益を出すと同時に社会課題を解決していく仕組みが求められます。そもそも企業は社会に役立つ商品やサービスを提供することを目的に生まれ、成長してきたという歴史があります。

近年、「(社会的) インパクト投資」が注目を集めています。インパクト投資とは、従来の経済的（金銭的）リターンに加え、投資を通じて社会的課題の解決を目指す投資のことです。インパクト投資を促進するグローバルな組織（GIIN）によると、世界で1,720以上の機関投資家がインパクト投資を行っており、運用資産総額は7,150億米ドルに上ると推計されています（2019年末時点）。

また、スタートアップの分野においても、顧客に幸福感をもたらし、その対価として企業が利益を得、さらにその結果として社会問題が解決される、そういうビジネスアイデアの実践を目指した起業も多く見られます。そこに共通しているのは社会課題解決に向けた創業者の強い思いと、それを可能にしたテクノロジーです。

今後、社会課題の解決のために、リスクマネーの供給・循環を担う金融の役割がますます大きくなっていくでしょう。今回当社もサステナビリティ推進担当役員を新たに任命しました。野村グループとしてもサステナビリティへの取組みを加速していきます。